

## モンゴル科学技術大学において講演を行いました(2017/03/10-15)

テーマ：地震工学、リアルタイム地震観測装置、振動測定  
 場所：モンゴル科学技術大学（モンゴル）

3月10日～3月15日、モンゴル・日本工学系高等教育支援(MJEED)事業の一環として「モンゴル国における環境・地震工学に関する研究・開発」プロジェクトを実施しているモンゴル科学技術大学土木・建築学部のカウンターパートとして、災害科学国際研究所 災害リスク研究部門 地域地震災害研究分野の源栄正人教授は同大学を訪問し、2つの招待講演を行うとともに、リアルタイム地震観測装置の現地視察、および耐震性が懸念されている旧ソ連時代の設計法に基づくPCパネル構造建築の視察と振動測定を行いました。土質力学・動力学の研究室を中心とする研究集会において、「Comprehensive Earthquake Countermeasures of Urban and Architecture Considering Geological Environment」と題する招待講演を行うとともに、若手研究者の研究発表について研究討論を行いました。また、「第11回建築構造物の土質力学の理論と実践」を兼ねた「地震工学に関する日本・モンゴル合同研究集会」では、「Development of Structural Health Monitoring System Combined with Earthquake Early Warning System for Real-time Earthquake Information Navigation」と題する招待講演を行うとともに、多くの参加者と交流を図りました。この講演で源栄教授は、地盤条件を考慮しないモデルによる単なる予測ではなく、実験・観測と理論・解析の対応に基づくナビゲーションの必要性を強調しました。ウランバートル市の地震被害想定事業の技術指導を行った経緯もあり、この研究集会場でモンゴルの地震対策について国営放送や民放のインタビューを受け、報道されました。



源栄教授講演の様子



招待講演記念品贈呈



PCパネル工法による12階建建物と振動測定の様子



地震工学に関する日本・モンゴル合同研究集会での集合写真